

2018（平成30）年度 研究所報告

1. 組織（2018年6月1日現在）

所 長	加藤 丈雄
主 事	阿部 利洋
委 員	滝口 直子（大学院文学研究科長）
	藤谷 徳孝（教育研究支援部事務部長）
	野澤 弘篤（教育研究支援課長）
	織田 顕祐（教授・仏教学）
	脇坂 真弥（准教授・宗教哲学・倫理学）
	新田 智通（准教授・仏教学）
	藤原 正寿（准教授・真宗学）
	徳田 剛（准教授・地域社会学）
	松浦 典弘（准教授・東洋史学）

2. 研究組織

〔特定研究〕

**新しい時代における寺院のあり方研究**

研究課題 現代社会と寺院の抱える問題点の分析、およびそこでの寺院の果たし得る役割についての研究

研究代表者 木越 康（学長・教授・真宗学）

研究員 東館 紹見（教授・日本仏教史）

山下 憲昭（教授・社会福祉学）

徳田 剛（准教授・地域社会学）

藤枝 真（准教授・宗教学・哲学）

藤元 雅文（講師・真宗学）

嘱託研究員 本林 靖久（本学非常勤講師）

研究補助員（RA） 松岡 淳爾（博士後期課程第2学年）

〔指定研究〕

**国際仏教研究**

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の収集・整理・公開

研究代表者 Robert F. Rhodes

研究員 Robert F. Rhodes（教授・仏教学）

加来 雄之（教授・真宗学）

Dash Shobha Rani（准教授・仏教学）

田中 潤一（准教授・教育哲学）

- 新田 智通（准教授・仏教学）  
 Michael J. Conway（講師・真宗学）  
 松川 節（教授・東洋史学）  
 井黒 忍（准教授・東洋史学）
- 嘱託研究員 Michael Pye（マールブルク大学名誉教授）  
 James C. Dobbins（オバーリン大学教授）  
 Mark L. Blum（カリフォルニア大学バークレー校教授）  
 Paul Watt（早稲田大学エクステンションセンター非常勤講師）  
 下田 正弘（東京大学教授）  
 羽田 信生（毎田周一センター所長）  
 阿満 道尋（モンタナ大学准教授）  
 Wayne S. Yokoyama（元花園大学講師）  
 John LoBreglio（EB誌編集者、オックスフォード・ブルックス大学准教授）  
 三鬼 丈知（本学非常勤講師）  
 井上 尚実（教授・真宗学）
- 研究補助員（RA） 常塚 勇哲（博士後期課程第2学年）  
 鶴留 正智（博士後期課程第1学年）

### 西藏文献研究

- 研究課題 チベット語文献のデータベース化  
 研究代表者 三宅伸一郎  
 研究員 三宅伸一郎（教授・チベット学）  
 上野 牧生（短期大学部講師・仏教学）  
 松川 節（教授・モンゴル学）
- 嘱託研究員 白館 戒雲（本学名誉教授）  
 伴 真一郎（2017年度西藏文献研究嘱託研究員）  
 S. DEMBEREL（モンゴル国立大学総合科学部講師）  
 山口 欧志（奈良文化財研究所研究員）  
 渡邊 温子（本学非常勤講師・特別研究員）  
 Gengga（青海民族大学蔵学院教授）
- 研究補助員（RA） ARILDII BURMAA（博士後期課程第3学年）  
 GENGZANG QIEZHU（博士後期課程第3学年）

### ベトナム仏教研究

- 研究課題 ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との共同研究  
 研究代表者 織田 顕祐  
 研究員 織田 顕祐（教授・仏教学）

- 浅見直一郎 (教授・東洋史学)  
 采翠 晃 (准教授・仏教学)  
 箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)  
 嘱託研究員 桃木 至朗 (大阪大学教授)  
 大西 和彦 (ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院客員研究員)  
 Pham Thi Thu Giang (ハノイ国家大学附属人文科学大学准教授)  
 宮嶋 純子 (関西大学東西学術研究所非常勤研究員)  
 TRAN QUOC PHUONG (フエ仏教協会教育部副部長、フエ市仏教  
 中高等学校副校長) (2018年10月1日付)  
 研究補助員 (RA) NGUYEN TUONG GIANG (博士後期課程第1学年)

### 清沢満之研究

- 研究課題 『清沢満之全集』別巻の編纂と思想研究  
 研究代表者 西本 祐攝  
 研究員 西本 祐攝 (短期大学部講師・真宗学)  
 一楽 真 (教授・真宗学)  
 加来 雄之 (教授・真宗学)  
 藤原 正寿 (准教授・真宗学)  
 福島 栄寿 (教授・歴史学)  
 大艸 啓 (講師・歴史学)  
 嘱託研究員 名畑直日児 (真宗大谷派教学研究研究所員)  
 川口 淳 (任期制助教)  
 研究補助員 (RA) 藤井 了興 (博士後期課程第1学年)

### 東京分室指定研究

- 研究課題 宗教的言語の受容／形成についての総合的研究—哲学的・宗教学的  
 的・人類学的視点から—  
 研究代表者 池上 哲司  
 研究員 池上 哲司 (本学名誉教授)  
 松澤 裕樹 (PD 研究員・西洋哲学)  
 藤原 智 (PD 研究員・真宗学)  
 稲葉 維摩 (PD 研究員・仏教学)

〔資料室〕

### 大谷大学史資料室

- 研究課題 大学史関係資料の収集・整理  
 室長 阿部 利洋 (研究所主事・教授・社会学)  
 嘱託研究員 松岡 智美 (2017年度大谷大学史資料室嘱託研究員)

研究補助員（RA） 老泉 量（博士後期課程第3学年）

### デジタル・アーカイブ資料室

研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

室長 阿部 利洋（研究所主事・教授・社会学）

嘱託研究員 川端 泰幸（講師・日本中世史）

清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）

舟橋 智哉（2017年度デジタル・アーカイブ資料室嘱託研究員）

山本 春奈（2017年度デジタル・アーカイブ資料室嘱託研究員）

### 〔一般研究／共同研究〕

研究課題 紋章との比較による系譜の図像化規則とその構造分析

研究代表者 柴田みゆき

研究員 柴田みゆき（教授・情報処理学）

三浦誉史加（准教授・英文学・英米文化）

協同研究員 松浦 亨（北海道大学病院国際医療部客員臨床教授）

杉山 正治（本学非常勤講師）

生田 敦司（本学非常勤講師）

清水 利明（本学非常勤講師）

横澤 大典（本学非常勤講師）

平塚 聡（本学非常勤講師）

研究課題 健聴児ならびに聴覚障害児の数学的コミュニケーション能力の測定方法の開発

研究代表者 江森 英世

研究員 江森 英世（教授・数学教育学）

協同研究員 森本 明（福島大学人間発達文化学類教授）

加藤 慎一（奈良佐保短期大学講師）

竹村 景生（奈良教育大学附属中学校教諭）

研究課題 ウェアラブル端末を用いた大学生の学習意欲喚起のための研究

研究代表者 上田 敏樹

研究員 上田 敏樹（准教授・情報工学）

福田 洋一（教授・仏教学）

柴田みゆき（教授・情報処理学）

酒井 恵光（准教授・計算機科学）

高橋 真（講師・比較認知科学）

協同研究員 平澤 泰文（本学非常勤講師）

池田 佳和 (元本学特別任用教授)

研究課題 人口減少時代の地方都市・中山間地域の多文化化と地域振興に関する社会学的研究

研究代表者 徳田 剛 (准教授・地域社会学)

協同研究員 梅村 麦生 (日本学術振興会特別研究員-PD)

研究課題 モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究

研究代表者 松川 節

研究員 松川 節 (教授・モンゴル学)

三宅伸一郎 (教授・チベット学)

研究課題 地方の社会解体的危機に抗する〈地域生活文化圏〉の形成と展開

研究代表者 西村 雄郎

研究員 西村 雄郎 (教授・地域社会学・コミュニティ論)

協同研究員 岩崎 信彦 (神戸大学名誉教授)

鯉坂 学 (同志社大学名誉教授)

杉本久未子 (元大阪人間科学大学教授)

堤 圭史郎 (福岡県立大学人間社会学部准教授)

寄藤 晶子 (福岡女学院大学人文学部准教授)

加藤 泰子 (同志社大学非常勤講師)

研究協力員 (支援) 吉田 愛梨 (首都大学東京大学院人文科学研究科博士後期課程)

研究課題 変動帯の文化地質学

研究代表者 鈴木 寿志

研究員 鈴木 寿志 (教授・文化地質学)

廣川 智貴 (准教授・ドイツ文学)

協同研究員 清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)

大井 修吾 (本学非常勤講師)

梅田 真樹 (京都西山短期大学非常勤講師)

研究協力員 (支援) 岡田 笙 (放送大学教養学部履修生) (2018年9月30日まで)

研究課題 世親作『釈軌論』の総合的研究

研究代表者 上野 牧生 (短期大学部講師・仏教学)

協同研究員 堀内 俊郎 (浙江大学ポストドクトラルフェロー)

- 研究課題 5～13世紀ユーラシア東方における都城と仏塔の比較史的研究と  
3Dアーカイブ作成
- 研究代表者 武田 和哉
- 研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）  
川端 泰幸（講師・日本中世史）
- 協同研究員 吉川 真司（京都大学大学院文学研究科教授）  
横内 裕人（京都府立大学文学部教授）  
藤原 崇人（関西大学・龍谷大学非常勤講師）  
正司 哲朗（奈良大学社会学部准教授）  
古松 崇志（本学非常勤講師・京都大学人文科学研究所准教授）  
高橋 学而（福岡文化学園博多女子高校教諭）
- 研究課題 歴史史料・考古資料活用による次世代作物資源の多様性構築に向けた学際的研究
- 研究代表者 武田 和哉
- 研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）  
三宅伸一郎（教授・チベット学）
- 協同研究員 吉川 真司（京都大学大学院文学研究科教授）  
渡辺 正夫（東北大学大学院生命科学研究所教授）  
矢野健太郎（明治大学農学部教授）  
江川 式部（明治大学商学部兼任講師）  
横内 裕人（京都府立大学文学部教授）  
鳥山 欽哉（東北大学大学院農学研究科教授）  
等々力政彦（2017年度一般研究武田班②協同研究員）  
佐藤 雅志（東北大学農学部准教授）  
清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 新出資料の調査と分析に基づく沖縄仏教史・真宗史に関する総合的研究
- 研究代表者 福島 栄寿
- 研究員 福島 栄寿（教授・近代日本仏教史・近代日本思想史）
- 協同研究員 知名 定寛（神戸女子大学文学部教授）  
長谷 暢（法政大学沖縄文化研究所国内研究員）  
川邊 雄大（二松学舎大学非常勤講師）
- 研究協力員（RA） 上山 慧（博士後期課程第3学年）

- 研究課題 西洋哲学の初期受容とその展開—井上円了と清沢満之の東大時代  
未公開ノートの公開—
- 研究代表者 村山 保史
- 研究員 村山 保史 (教授・西洋哲学・日本哲学)  
Michael J. Conway (講師・真宗学)  
味村 考祐 (任期制助教・西洋哲学)  
東 真行 (任期制助教・真宗学)
- 協同研究員 西尾 浩二 (本学非常勤講師)  
狭間 芳樹 (本学非常勤講師)  
三浦 節夫 (東洋大学ライフデザイン学部教授)  
柴田 隆行 (東洋大学社会学部教授)  
ライナ・シュルツァ (東洋大学情報連携学部准教授)  
長谷川琢哉 (親鸞仏教センター研究員)

## 〔一般研究／個人研究〕

- 研究課題 前近代中国黄河中流域における水利権と水利組織
- 研究代表者 井黒 忍 (准教授・東洋史学)
- 研究課題 北朝鮮の音楽政策に関する研究
- 研究代表者 森 類臣 (任期制助教・特別研究員)
- 研究課題 傷痍軍人職業保護事業で整形外科医が果たした役割についての歴史的  
的研究
- 研究代表者 上田 早記子 (本学非常勤講師・特別研究員)
- 研究課題 幼児期・児童期前期における自己評価変動モデルの構築
- 研究代表者 渡邊 大介 (講師・発達心理学・教育心理学)
- 研究課題 再犯リスク低減と更生の基盤づくりを目指したピアサポート活動  
の試行的実践とその評価
- 研究代表者 脇中 洋 (教授・発達心理学・法心理学)
- 研究課題 東南アジアサッカー市場における移民選手の戦略とネットワーク
- 研究代表者 阿部 利洋 (教授・社会学)
- 研究課題 インド・チベット論理学相互理解のための基礎資料の構築
- 研究代表者 福田 洋一 (教授・仏教学)

- 研究課題 嗅覚刺激に基づく感覚間相互作用を活かした美術鑑賞教育法の実践的研究  
研究代表者 池永 真義（准教授・美術教育学）
- 研究課題 ダンス教育で育てるからだを問う～ソマティクスとボディ・ワークのかかわりから  
研究代表者 原田奈名子（教授・体育科教育・舞踊学および舞踊教育学・Somatics）
- 研究課題 認知症患者との「関係性」についての新モデルの構築と展開―「主体」論を超えて  
研究代表者 翁 和美（特別研究員）
- 研究課題 「黒ノート」に依拠したハイデッガーのナチズム問題の再検討―メタポリティークを軸に  
研究代表者 田鍋 良臣（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 19世紀フランス詩における宗教的混淆―教育から文学創造へ  
研究代表者 塚島 真実（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 東南アジア大陸部で発展した積徳行文献の体系解明  
研究代表者 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 『甚深伝』校訂と解析によるミラレーパの仏教思想の解明  
研究代表者 渡邊 温子（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 生活困難状況にある若者への離家支援としての共同生活型支援の実態及び有効性の検討  
研究代表者 岡部 茜（任期制講師・社会学・社会福祉学）
- 研究課題 空海の遺志に立ち返る碩学たち：近世後期の「根本説一切有部律」研究  
研究代表者 岸野 亮示（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 ソーシャルアクションの国際比較研究  
研究代表者 中野加奈子（准教授・社会福祉学）



研究課題 ユネスコ「世界の記憶」ヨーロッパ最古の公共図書館の成立：利用者の観点から

研究代表者 山本 貴子（教授・図書館情報学）

研究課題 農業奉公の歴史社会学的研究—労働を通じた社会的包摂に着目して

研究代表者 阿部 友香（任期制助教・特別研究員）

### 3. 指定研究の動向

#### 新しい時代における寺院のあり方研究

本研究は、人口減少や地域構成員相互における関係性の稀薄化等の深刻な問題を抱える現代の地域社会において、寺院の果たし得る役割について研究し、その成果を公開しようとするものである。

3か年の計画のうち2年目にあたる本年度の活動は以下の通りである。

①調査対象地域における調査の実施：昨年度に引き続き岐阜県揖斐川町春日地区において地域及び寺院対象の調査を実施した（現地調査計12回、電話による調査1回）。本年度は、特に寺院調査において、他地域に移住している寺院門徒への聞き取り調査を加えて行った。昨年度と同様、地域・寺院の厳しい状況が浮かび上がり、そうした状況が多様で複雑な問題を内包していることが確認された。しかし、やはりこれも昨年度の調査と同様、そうした厳しい状況のもと、地域と寺院が密接に関わる形での諸活動が歴史的背景に裏づけられた形で地道に行われ続けている点を確認できた。

②学外講師による研究会の開催：本研究班と共通する問題関心・研究課題を持つ研究者を招き、研究会を5月、7月、1月の計3回開催した。

③日本宗教学会第77回学術大会でのパネル発表：2018年9月に開催された同大会において、「人口減少社会における地域と寺院のあり方研究」のテーマで研究員及び学外研究者によるパネル発表を行った。過疎地域における問題が多様である点、他出子に注目することや、生者にとどまらず死者をも含めた人間の関係性に注目することが重要である点などが確認された。

④研究論文の公開：上記の調査・活動から得られた知見を整理・公開するため、「中山間地域に立地する真宗寺院の現状と課題—人口動態と他出子対応の視点から—」と題する研究論文を研究員・研究補助員の共著により執筆した。一連の調査を通じて明らかになった、当該地域の人口減少・高齢化が深刻である点、比較的近距离に居住する他出子世帯が多く存在するという特徴を有している点、これらの状況が寺院運営に大きく影響を及ぼしている、また今後も及ぼすであろう点などを具体的に述べた。

⑤以上の活動の外、石川県七尾市で行われた超宗派の共同調査への参加報告会を1回、研究課題の明確化や調査実施に際しての具体的な手法の確認、調査結果の分析等を行うミーティングを計17回実施した。

## 国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。2018年度は英米班、東アジア班の二班の体制で研究を進め、それぞれ下記のような研究テーマで活動している。

〈研究テーマ〉

- ①英米班：真宗を中心とした仏教研究動向を把握し、真宗関連資料の翻訳出版、欧米の研究者・研究機関との共同研究を立案・推進する。
- ②東アジア班：中国華北・東北・東部モンゴル地域の宗教と文化の研究、中国社会科学院歴史研究所との共同研究を行う。

〈英米班〉

### ①国際学会への参加

- 1) ヨーロッパ宗教学会（EASR）第16回学術大会（2018年6月17日(日)～6月21日(木)、スイスのベルン大学）

ロバート・ローズ研究員、マイケル・パイ囑託研究員（マープルグ大学名誉教授）が「Multiple Religious Identities in Japan」と題するパネルで発表を行った。

- 2) エトヴェシ・ロラード大学（ELTE）と共催の第3回国際仏教シンポジウム（2018年9月17日(月)～18日(火)、ハンガリーのエトヴェシ・ロラード大学）

以下の通りで本学教員の6名が研究発表および講演を行った。木越康教授（真宗学）「Recent Trends Concerning the Issue of 'Buddhism and Practice' in Contemporary Japan」（日本における「仏教と実践」という課題についての近年の動向）（基調講演）ロバート・ローズ研究員「Can Arhats Attain Buddhahood? An Issue in the Interpretation of the Lotus Sūtra」（阿羅漢は成仏できるのかー『法華経』解釈の一つの問題についてー）井上尚実囑託研究員「Problems in "Transfer of Merit" as Buddhist Practice」（仏教の行としての「回向」の諸問題）藤元雅文准教授（真宗学）「Shinran's "Practice": The Shin Buddhist Shift in the Buddhist Understanding of Practice」（親鸞における「行」ー「行理解における真宗（他力）的転回ー）上野牧生講師（仏教学）「On the Listening to Buddha's Words with Reverence: The Very First Step of Buddhist Practice in Vasubandhu's Vyākhyāyukti」（敬意をもって仏の言葉を聞くことについてー世親の『釈軌論』における仏教修行の第一歩ー）マイケル・コンウェイ研究員「Practice and Other Power in Daochuo's Pure Land Buddhism」（道綽の浄土教における行と他力）

### ②真宗関係の翻訳研究

- 1) 『歎異抄』翻訳研究プロジェクト

大谷大学真宗総合研究所とカリフォルニア大学パークレー校東アジア研

研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターの三機関による協定が締結され、合同で『歎異抄』およびそれに関連する近世近代の文献（講録等）を英訳研究するプロジェクトが立ち上がった。今後5年間の予定で年2回（3月にバークレー、6月に京都で1回ずつ）合同ワークショップを開催し、最終的に2冊の研究書（注釈付き本文英訳+研究論文集）の出版を目標とする。その第4回ワークショップは2018年6月22日(金)から24日(日)に龍谷大学で開催された。そして第5回ワークショップは2019年3月1日(金)から3日(日)にカリフォルニア大学バークレー校の主催でバークレー市の浄土真宗センターにて開催された。研究員および本学の大学院生が参加した。

## 2) 教師課程教科書『宗門の歩み』英訳出版

本研究班の研究員の協力を得て、阿満道尋嘱託研究員を中心に進めてきた『宗門の歩み』英訳は真宗大谷派北米開教区真宗センターから出版された。

## ③国際シンポジウムの成果出版

### 1) 真宗近代教学アンソロジー *Cultivating Spirituality* 出版記念シンポジウムの成果出版

2015年6月26日(金)、27日(土)の2日間、大谷大学で *Cultivating Spirituality* 出版 (SUNY, 2011) を記念して開催されたシンポジウムの成果を、マーク・L・プラム教授（嘱託研究員）とマイケル・コンウェイ研究員の共同編集により欧米の大学出版から出版する予定で編集作業を進めた。具体的にコンウェイ研究員とウェイン横山嘱託研究員が定期的に真宗総合研究所内で編集作業に取り組んだ。

### 2) エトヴェシ・ロラード大学 (ELTE) と共催の第2回国際仏教シンポジウムの成果出版

2016年5月26日(木)、27日(金)の2日間ハンガリーの ELTE 東アジア研究所の共催により、「仏陀の言葉とその解釈」というテーマで開催した第2回共同シンポジウムの成果を、ELTE のハマル・イムレ教授と井上尚実嘱託研究員の共編で、出版するために、井上嘱託研究員が編集校正作業を進めた。

## ④ The Eastern Buddhist Society 東方仏教徒協会 (EBS) の事業

昨年度の移管に伴う体制の整備を行ない、英文学術誌 *The Eastern Buddhist* の編集・出版過程の効率化に向けて編集体制の充実を図った。なお、2018年9月8日(土)に本学で開催された日本宗教学会にて EBS の将来の編集方針等についてパネル発表を行い、多くの参加者から今後の方向性について貴重な提言を得た。なお、*The Eastern Buddhist* 誌は8月に Vol. 47 No. 1を、2月に Vol. 47 No. 2をそれぞれ刊行した。

## ⑤公開講演会の開催

2018年8月7日(火)に目片祥子氏（ハーバード大学南アジア学科ポストドック研究員・チベット語講師）を講師として招き、「チベット仏教史—サキャ派系譜を中心として—」という題名のもと、公開講演会を開催した。

2018年11月14日(水)にヨーン・ボルプ氏（オーフス大学准教授）を講師として招き、「Japanese Buddhism in Europe」（ヨーロッパにおける日本仏教について）という題のもと、公開講演会を開催した。

⑥真宗・仏教関係の欧文書籍・研究論文の書誌データ収集と整理

本学の図書館における電子ジャーナル購読と研究所における紙媒体での購読の重複を避けるために調査を行い、購読雑誌の整理をした。

〈東アジア班〉

I. 研究会

中国社会科学院歴史研究所との学術交流協定に基づく研究活動として2回の研究会を開催し、中国における宗教と文化に関する研究活動として2回の研究会を開催した。

(1) 中国社会科学院歴史研究所との学術交流協定に基づく研究活動の一環として、同研究所より4名の研究者を招聘し、2018年12月14日(金)に響流館4階真宗総合研究所ミーティングルームにおいて公開研究会を実施した。報告者および報告タイトルは以下の通りである。楊宝玉氏（中国社会科学院歴史研究所文化史研究室、研究員）「江南の遠客蹲り、翹思するも未だ還るを得ず」—晩唐期に西陲の敦煌に滞在した江南の文士」、烏雲高娃氏（中国社会科学院歴史研究所中外関係史研究室副主任、研究員）「多言語テキストに見る元代の駅と訳」、陳時龍氏（中国社会科学院歴史研究所明史研究室副主任、研究員）「聖諭六条と明清時代の基層教化」、孫靖国氏（中国社会科学院歴史研究所歴史地理研究室副主任、副研究員）「清代初期地図史引論」。

(2) 2018年12月15日(土)に、東アジアにおける宗教と文化に関する研究活動の一環として、戦中期における真宗大谷派の琉球布教に関する公開研究会を開催した。報告者は川邊雄大氏（二松学舎大学）、報告タイトルは「明治期琉球における真宗法難事件—小栗憲一を例として—」である。

(3) 2019年2月15日(金)に、戦中期における日本の仏教者および仏教史学者によって行われた中国仏教史跡調査に関する公開研究会を開催した。報告者は藤井由紀子氏（同朋大学仏教文化研究所）、報告タイトルは「日中戦争下の学術調査と仏教—新出の『小川貫弍資料』を中心として—」である。

(4) 中国社会科学院歴史研究所との学術交流協定に基づく研究活動の一環として、2019年3月3日(日)より3月7日(木)の間、浅見直一郎教授と岩本真利絵任期制助教を特別招聘者として派遣し、同月5日(火)に中国社会科学院歴史研究所において研究報告を行った。報告者と報告タイトルは以下の通りである。浅見直一郎氏「4～7世紀の日本における中国文化の受容—最近の研究を中心として—」、岩本真利絵氏「管志道の思想形成と政治的立場—万曆五年張居正奪情問題とその後—」。

## 西藏文献研究

### 1. チベット語文献の電子テキスト化・画像デジタル化とその公開

今年度は、2007～2015年度の間借用し整理・研究を進めていた富山県城端の宗林寺所蔵の寺本婉雅（1872-1940）旧蔵チベット語文献中、ケンチェン・パンデイタ=イェシェー・ペルデン『ホルの地に王統と仏教・仏教の保持者・文字の創始・寺院などがいかに現れたのかを説く「宝の数珠」』（1835年著作）の出版に向けた研究を行なった。本文献にはモンゴル語版があり、『エルデニーン・エリヘ』の名で知られている。今後のより詳細な対照研究に資するため、チベット語テキスト中に、コペンハーゲン王室図書館所蔵『エルデニーン・エリヘ』写本の該当する箇所を葉数を記入した。合わせて、チベット語テキストの見直し・校正を行なった。

この他に、本学図書館所蔵のチベット語文献のうち蔵外13940『極楽に生まれるポワ（遷移）と犯戒還浄など』というウメー書体写本の研究に着手した。また、『プトン仏教史』第1章仏教概説の部分の邦訳研究を行った。

### 2. モンゴル国立大学との共同研究

モンゴル国立大学総合科学部哲学・宗教学科のS. デムベレル講師を招き、6月29日(金)には同氏を講師として「モンゴルで新たに発見されたチベット語仏教文献」のテーマのもと、公開講演会を開催した（『所報』No. 73, p. 37参照）。また、8月18日(土)～25日(土)にはモンゴル国において、遺跡のドローン撮影と碑文の3D撮影を行なった（『所報』No. 73, p. 26参照）。

### 3. 海外の研究者・研究機関との交流

4月27日(金)に中国蔵学中心図書資料室館員ソナム・ドルジェ氏を招き、「清代（17～20世紀初頭）到北京で開版されたチベット語文献とチベット古文獻の保護について」とのテーマで公開講演会を開催した（『所報』No. 73, p. 36参照）。

2018年10月には本学と中国蔵学研究中心の間で「学术交流に関する協定書」が締結された。

## ベトナム仏教研究

当研究班は、ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との間で締結された「学术交流に関する協定」に基づき共同研究を推進するものである。調査・研究協力の他、将来に向けての研究者育成といったベトナム側からの要請に応じて、相互学術的交流を行うものである。年度当初に研究目的として掲げた点に従って2018年度の経過を報告する。

### 1. 『ベトナム仏教概説』の日本語訳を進める

これまで当該研究は、ベトナム宗教研究院のグエン・クオック・トゥアン旧院長が中心になって準備が進められてきた。ほぼ半分を執筆・翻訳した段階で執筆

担当者の病気療養により一旦中断していたが、結局治療の効果が上がらず2019年2月8日(金)にご本人は急逝された。そのため、当該研究は仕切り直す必要が生じた。年度末の宗教研究院訪問において、既に出来上がっている原稿に基づき、2019年末までに宗教研究院において分担執筆して完成することを確認した。

## 2. 『日本仏教概説』のベトナム語訳を進める

現在のベトナムでは、学術的なレベルで日本語—ベトナム語を使用できる研究者は極めて少ない。ハノイ国家大学付属人文科学大学准教授のPham Thi Thu Giang氏はそのうちの1人である。氏は日本に留学し日本仏教の分野で博士の学位を取得した現代ベトナムを代表する若手の俊秀である。同氏はこれまでに、いくつかの日本語の書物をベトナム語に翻訳し出版している実績を有しており、日本語の書物をベトナムに紹介する際の一定のノウハウをお持ちであることを確認した。こうした氏の協力によって次年度中に翻訳・出版が可能であるとの見通しを得た。

## 3. 現地フィールドワーク

今年度は現地フィールドワークを2019年2月26日(火)～3月5日(火)にかけて実施した。詳細はすでに『研究所報』74号で報告したので省略する。

## 4. ベトナム仏教関係資料の解読研究の実施

『禅苑集英』の解読研究会を毎月二回のペースで実施した。当該書はベトナム北部地域の禅宗の伝統を伝えるものである。次第にその内容が明らかになってきたが、当該書は客観的な歴史的記述ではなく、当該時代の仏教史観を表現するような意味を持った書物である。こうした視点を明確にすることによって、当該書を公開する意義もはっきりすると考えられる。なお、2018年12月13日(木)に、かねてから『禅苑集英』の研究に邁進されてきた明治大学の佐野愛子氏の講演が実現し、いくつかの新しい情報を得た。

## 5. 現地における「日本語・日本研究、東アジア・仏教研究」の現状把握

前年出会ったフエ報国寺の釈福田(Tran QuocPhuong)氏を囑託研究員に迎えた。同氏の参加によって北部とは異なるベトナム中部の仏教受容にも視野を広げたい。

## 6. ベトナム関係文献資料の収集

新たにベトナム民俗信仰や地誌に関するもの数点を収集したが、詳細は割愛する。

## 清沢満之研究

本研究は、大谷大学編『清沢満之全集』（全9巻、岩波書店、2002-3、以下『全集』）別巻の刊行を研究目的としている。『全集』刊行後、清沢満之研究は新たな展開をみせており、その中で『全集』未収録文献の情報が寄せられてきた。本研究では、新たに清沢満之著述と認めることができる文献を収集・翻刻し、『全集』掲載基準についての精査を行い、2巻分に及ぶ基準を満たす文献を確認するに至った。これらの文献を『全集』別巻1・別巻2として刊行し、清沢満之研究の進展に寄与することを目指している。2018年度は、別巻の編集作業を最優先し、ミーティングを随時行いながら作業を進めた。

### ①収録文献の編集作業

新たな清沢満之関連の文献を48点収集・翻刻し、うち38点が掲載基準を満たすことを確認している。これらの翻刻・校正作業を行うとともに、校正済の原稿から読み合わせ作業を2班体制で進め、文意確認や注にあげるべき事項の抽出、体裁の調整方針などについて検討した。

### ②別巻の構成案の確定

これまでの収集文献の内容検討を踏まえ、別巻1・別巻2の構成案を検討した。現在、収集済の文献は『全集』の体裁で2巻分の分量である。既刊『全集』は各巻をテーマ別に分類し、巻ごとに名称を付したが、別巻は巻ごとの名称を付さず、別巻1・別巻2とし、講義・執筆年代と内容を踏まえ、適切な頁数で区切る案を作成した。

### ③出張（西方寺・岩波書店）

西方寺（愛知県碧南市）への出張は、以前より、『全集』未収録の清沢著述文献に関する情報を入手していたため、出張調査を名畑直日兄氏（嘱託研究員）に依頼したものである。結果、『全集』収録済の「世界の進み」の続編が『徳風』に掲載されていたことが確認され、これを追加収録することを決定した。岩波書店への出張は、別巻刊行について同社編集部の担当者と交渉した。同社からは、別巻刊行の必要性への理解が示され、年度内に出版費用の見積りの提示、および契約の是非についての報告を確約された。

以上が2018年度の主な活動成果である。2019年度は、編集上の具体的な方針を確定し、年度内における別巻1の刊行を目指す予定である。

## 東京分室指定研究

### 1. 共同研究発表

各研究員が自らの研究課題を宗教的言語という観点から発表し、それを他の分野の視点から議論・批判するというゼミナール形式の研究会を22回ほど行った。

## 2. 各研究員の活動

### • 松澤研究員

マイスター・エックハルトのドイツ語説教における言説をラテン語著作における言説と比較しながら、ドイツ語説教における「言葉」の特性について研究を進めた。

### • 藤原研究員

親鸞の『教行信証』で言及されているいくつかのテーマについて集中して考察した。また、『教行信証』研究史ということにも着目した。

### • 稲葉研究員

初期（部派）仏教で使われる仏教用語や、仏教文献を伝える言語を研究した。仏教文献の抱える基礎的な問題を意識しながら、仏教用語の研究として sakkāya 一の語義や非我・無所有の意味内容などを検討した。

## 3. 出張

### (1) 松澤研究員

2018年8月6日(月)～11日(土)、15日(水)～16日(木)：テュービンゲン大学（ドイツ）  
テュービンゲン大学中央図書館と同神学部図書館において13世紀～14世紀にかけてのドミニコ会とアウグスティノ会の説教関連資料の収集・複写を行った。

### (2) 池上・松澤・藤原・稲葉研究員

2018年9月7日(金)～9日(日)：大谷大学（日本宗教学会参加）

### (3) 池上・松澤・藤原研究員

2019年2月3日(日)～13日(水)：前半は沖縄竹富島・石垣島、後半は長崎五島列島  
沖縄・五島列島宗教的聖地実地調査。

## 4. 公開研究会の開催

### 第5回「宗教と人間」研究会

テーマ：「監獄教誨の歴史—「悪」から見た近代」

日時：2018年8月3日(金)16：00～18：00

会場：親鸞仏教センター5F セミナー室

講師：繁田真爾（明星学園教諭／早稲田大学現代政治経済研究所特別研究員）

### 第6回「宗教と人間」研究会

テーマ：「恩寵と他力—キリスト教と仏教の対話—」

日時：2018年12月16日(日)13：00～17：00

会場：立教大学池袋キャンパス12号館 B1第1・2会議室

講演者：Johannes Brachtendorf（テュービンゲン大学教授）木越康（大谷大学教授）

田島照久（早稲田大学名誉教授）角田佑一（上智大学専任講師）



第7回「宗教と人間」研究会

テーマ：「仏典における弥勒に関する記述の諸相—インド撰述文献を中心に  
した準備的調査」

日時：2019年2月27日(水)16：00～18：00

会場：親鸞仏教センター5F セミナー室

講師：宮崎展昌（一般財団法人人文情報学研究所研究員）

